

## 2 使役・尊敬の助動詞

「す・さす・しむ」

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用型	接続
しむ	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ	下二段型	四段・ラ変・ナ変の未然形につく 右以外の未然形につく
さす	させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ		四段・ラ変・ナ変の未然形につく
す	せ	せ	す	する	すれ	せよ		四段・ラ変・ナ変の未然形につく

### 1 使役「…せる…させる」

- ①言ひつること、いま一かへり我に言ひて聞かせよ。  
(更級日記・竹芝寺)
- ②(女房に)御格子あげさせて、(私が)御簾を高くあげたれば、わらはせ給ふ。  
〈「せ」は、「す」の連用形で尊敬〉(枕草子・雪のいと高う降りたるを)
- ③人を苦しめ、法を犯さしめて、それを罪なはむこと、不便のわざなり。(徒然草・四二段)

### 2 尊敬「お…になる…なさる」

- ④などかうは泣かせ給ふぞ。この花の散るを惜しうおぼえさせ給ふか。(宇治拾遺物語・二二)
- ⑤やがて山崎にて出家せしめ給ひて  
(大鏡・左大臣時平)

### 重要 「る・す／らる・さす」の接続

「る・す」は四段・ラ変・ナ変の未然形に、「らる・さす」はそれ以外の未然形につく。したがって、「る・す」は直前の一字が、ア段の音につく、「らる・さす」はそれ以外、と覚える。(下段参照)

### 補足 軍記物語での用法

受身でいうべきところに使役を使い武士の意地を見せる例がある。  
●監物太郎討たせ候ひぬ。  
(平家物語・巻九・知章最期)  
監物太郎が討たれました。

- ①言ったことを、もう一度私に言いつて聞かせなさい。
- ②(そばの女房に)御格子をあげさせて、(私が)御簾を高くあげたので、(中宮様は)お笑いになる。
- ③人民を苦しめ、(そのために)法律を犯させて、それを罰するようなことは、かわいそな行為である。
- ④どうして、こんなにもお泣きになるのか。この花が散るのを惜しいと思いなさるのか。
- ⑤そのまま山崎で出家しなすって、

### 注意

「る・す／らる・さす」の接続(図解)

ア段の音	四段	吹かる
ラ変	ラ変	侍らす
ナ変	ナ変	上イ
右以外の未然形	十	着らる
	十	下エ
	十	答へさす

### 読解のポイント 「す・さす・しむ」意味の見分け方

1 使役 尊敬語がなく、単独で用いられている場合は使役と考える。例文のように、次も同じである。

- さやうの話は、人に聞かせじ。 人に聞かせるまい
- 月の都の人、まうで来ばとらへさせむ。 とらえさせよう

2 尊敬 必ず下に「給ふ・おはします」などの尊敬語を伴う。

- 泣かせ給ふ。 お泣きになる
- おぼえさせ給ふ。 思いなさる
- 行幸せしめ給ふ。 行幸なさる

例文④⑤の場合、「す・さす・しむ」が尊敬、その下の「給ふ」も尊敬だから、尊敬語+尊敬語で最高の敬意表現ということになる。(p.149 最高敬意表現)

\*なお、下に尊敬語がついて「せ給ふ」などの形をとっている

でも、それまでに「使役の対象(〜に)が示されている(なくても補うことができる)場合は、尊敬でなく使役になる。  
●お琴召して、心得たる人々に弾かせ給ふ。  
「心得のある人々にお弾かせになる」のであって、「(ご自身)お弾きになる」のではない。



確認ドリル 次の「す・さす・しむ」の文法的意味を答えなさい。

- (1) 高き木にのぼせて、梢を切らせしに
- (2) 公も行幸せしめ給ふ。
- (3) 呼ばしむれども、答へざるなり。
- (4) 夜を明かしかねさせ給ふ。「かね」は…することができない
- (5) 君も臣も、大きに騒がせおはします。
- (6) 女房にも衣着させ給ふ。

## 練習 10

① 次の(〜)内の「る・らる」「す・さす」のいずれかを選び、適当な形に活用させなさい。

- ①あまりに水が速うて、馬は押し流さるる(〜)候ひぬ。  
(平家物語・巻九・宇治川先陣)

②無下(〜)のことも仰せ(〜)らるるものかな。

- ③(宮は)夜深く出で(す・さす)たまひぬ。  
(徒然草・一八八段)

④(宮は)まだ夜の明けないうちに、出て行きな(〜)さす。

練習 10 考え方 ①: 直前の接続でいずれかを判断し、直後の語で活用形を決める。①は四段、②③は下二段に接続。①③は用言、②は体言に続く。